

えんちょう通信

No.57

令和3年11月22日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤 一男

「みんなで食べると、おいしいね。」



11月18日(木)、清水小学校にお願いして、年長組の親子給食試食会を行いました。小学校の6年生が修学旅行に出かけているので、食器等にも余裕があり、この日になりました。

11時30分、小学校に行くと、昇降口で松野校長先生が待っていて、会場の家庭科室と会議室に案内してくださいました。給食はもう出来ていて、人数分を台車にのせて用意してあります。この日のメニューは「いかとブロッコリーの炒め物、里芋の味噌汁、きのこご飯、牛乳、まんてん黒豆」です。それをそれぞれの会場に運んで、お母さん方に配膳してもらいました。

どの子も少し緊張していましたが、みんなで「いただきます。」を言って、食べ始めました。

女の子が、きのこご飯をほおばりながら、「やっぱり、みんなで食べるとおいしいね。」と言って、にっこりしています。

子どもたちがおいしそうに食べたのを見て、私は先に幼稚園に戻りました。

給食を食べ終えて、幼稚園に帰ってきた子どもたちに話を聞いてみると、

「わたしは、きのこご飯 3回もおかわりしたよ。」「わたしは4回!」と競って教えてくれます。

「ブロッコリー 苦手だけど、4個も食べたよ。」

「僕、きのこが苦手なんだけど、全部食べたよ。」と胸を張って教えてくれる子もいました。

みんなで食べるとやっぱりおいしいのだと思います。お弁当の場合は、友だちが口にしたもの味の味は、なかなか想像できません。ですが給食では、みんなが同じものを食べますから、周りの子がおいしそうに食べていると、今まで苦手だった食べ物も「食べてみよう。」という気持ちになっていきます。「これ、おいしい。」と思えるようになっていきます。そうして子どもたちの心もつながっていきます。同じ場所で同じものを食べることは大切なのだとあらためて感じました。

この年長組の子どもたちも、あと4か月で小学生です。実際に給食を食べてみて、小学校入学が一層待ち遠しくなったのではないのでしょうか。

幼稚園から小学校へのスムーズな接続のためにも、このように給食を食べる機会をさらに増やしていきたいと考えています。